もり、さと、うみ。

第2回 時計台対話集会

「森と川と海の対話」

―安心・安全な社会を求めて

●平成十七年十二月十八日（日）

●京都大学百周年時計台記念館
百周年記念ホール

京都大学フィールド科学教育研究センター長
田中　克
たなか・まさる

「第2回時計台対話集会」開催にあたって

二十一世紀に入って、早くももう五年が経過しようとしております。二十一世紀のなるべく早い時期に解決を求められております多くの地球的課題は、残念ながらその解決の糸口さえまだ見出せないままに、事態は深刻化しているようにさえ思われます。昨年から今年にかけまして、非常に大きな規模の地震や津波、それからハリケーン、台風などが世界各地で発生し、人々の生命がたくさん損なわれました。今もなお多くの人たちが、その後遺症に悩んでおられます。また、私たちの身の回りに、地震大国・日本ではあってはならない耐震構造偽装というような事態が蔓延していたということに、改めて驚かされます。

それから、私たちの将来を担う多くの子供たちが、こんなことをしてみたい、あんな人間になってみたいというそんな夢も、突然に、何のいわれもなく絶たれてしまうといった、今まででは考えられないようなことが起こりつつあります。

そういった意味で、〝安心で安全〟な社会をもう一度築き直すということは、今日的に本当に大きな国民的課題だというふうに思われます。

「フィールド科学教育研究センター」は二年半前に、日本の国土のつながりの基幹になる森と海と川のつながり、このつながりの再生、それにかかわる教育研究に新しく取り組み始めました。この学問の前提にあるのは、いろいろな目に見えないつながりの重要性、そういったことが安心で安全な社会を築くうえで大切なことの一つではないかということです。私たちはそういった新しい価値観を生み出すような学問領域を目指して、教育研究に取り組んでいるところです。

私たちが気付く前に、それをもう当たり前のことと考え、すでに現場で自然と対峙してこられた方々が、各地で優れた実践活動をされておられます。これらの方々にご講演をいただき、森と里、森と川と海のつながりを改めて考え直してみたいというふうに思います。

この「安心で安全な社会を築く」ということは、京都大学の基本理念であります「地球社会の調和ある共存」ということにも深くかかわると思います。そこで、地震学者であられる本学総長尾池先生にも、「地球社会の共存」というテーマでお話をいただくことになりました。

この対話集会を開催するにあたりまして、多くの皆さん方からいろいろなご支援をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。